

## 学級会指導の現状と改善への提言

### 1. 設定理由

学級会を計画的に指導することは、「望ましい社会性」を育む上で重要である。これに関しここで取り上げるのは「合意形成の力」、即ち、一人ひとりが対等な人間として、お互いの考えや意見を尊重し合いながら話し合うことによって、合意形成を図る態度や能力である。

これまでの自分自身の経験を踏まえ、今回改めて、地域における学級会指導の実態をアンケートにより把握・分析し、より実施しやすい学級会のあり方・考え方を提案したいというのが本主題設定の動機である。

### 2. 研究目標

「学級会」を指導するについての地域の現状を把握し、より実施しやすい学級会指導のあり方・考え方について模索・提案する。

### 3. 研究内容

#### (1) 地域での学級会実施状況の実態把握

長生郡市の小中学校教職員に学級会の実施状況についてアンケートを取り、集計・考察する。(実施日：8月22日 対象：特別活動・学級経営部会研修会参加者31名)

指導の実態に関するアンケート調査では、指導方法を主にどこから学んだか、学級会の実施頻度、学級役員の有無、指導に関するいくつかの方法についてや、困っていること、学級会指導の手応え等について問うた。その中で、指導時間の不足や、指導法についての課題が浮き彫りになった。

#### (2) より実施しやすい学級会のあり方・考え方の提案

アンケート結果と自身の経験を踏まえて、より実施しやすい学級会のあり方・考え方を提案した。文部科学省の資料に掲載されているような、学級会のやり方を実施できれば、それに越したことはない。しかしこの方法は、授業時間以外での指導と準備を前提としているので、これを日常業務の中に組み込んでいくのは容易ではない。そこで、学級活動の授業時間でできるだけ収められるような、そしてより充実した実践の礎になるような学級会のやり方はないものか、そのための必要最低限の準備は何か、そこに焦点を当てて、検討した。

#### (3) 必要資料の提示

学級会を軌道に乗せるための必要資料をモデルとして示した。

### 4. 結論にかえて

今回の提案は、いわば「スタートライン」として提示したものである。さらにそれぞれの工夫で、指導の充実が図られていくことを期待したい。

## 1. 設定理由

実際のところ、子どもたちにとって（義務教育）学校の教育的役割は2つあると考える。一つは様々な意味での「学力」を身に付けさせること、もう一つは、集団で生活・学習することを通して、望ましい人格、特に「社会性」を身に付けさせることである。

学級会を計画的に指導することは、後者の役割である「望ましい社会性」を育む上で重要である。「望ましい社会性」に関してここで取り上げるのは、「合意形成の力」である。それは、暴力や経済力、権力などの「力」を背景としない、一人ひとりが対等な人間として、お互いの考えや意見を尊重し合いながら話し合うことによって、合意形成を図る態度や能力である。

自分のこれまでの経験と見聞から推察すると、この地域で学級会を計画的に実施している教員は少ないのではないかと。自分自身も40歳まで、文部科学省が示しているような学級会のスタンダードなやり方は知らなかった。そして、それを学んだ後今日に至るまでも、日常的・計画的にそれを実施することについては、結構手間がかかるというのが正直な感想である。

これまでの自分自身の経験を踏まえ、今回改めて地域の実態をアンケートにより把握し、より実施しやすい学級会のあり方・考え方を提案したいというのが本主題設定の動機である。

## 2. 目標

「学級会」を指導するについての地域の現状を把握し、より実施しやすい学級会指導のあり方・考え方について模索・提案する。

## 3. 内容と方法

### (1) 地域での学級会実施状況の実態把握

長生都市の小中学校教職員に学級会の実施状況についてアンケートを取り、集計・考察する。

実施日 8月22日

対象 特別活動・学級経営部会研修会参加者 31名

### (2) より実施しやすい学級会のあり方・考え方の提案

アンケート結果と自身の経験を踏まえて、より実施しやすい学級会のあり方・考え方を提案する。

### (3) 必要資料の提示

学級会を軌道に乗せるための必要資料をモデルとして提示する。

4. 結果と考察

(1) 地域における学級会実施状況の実態 (回答結果の数値は割合：%)

**A 回答者の構成**

- ① 性別 男 45 ・ 女 55
- ② 年齢 20代・30代・40代・50代  
39 26 29 6
- ③ 現在指導している学年等  
小学校 特別支援・1年・2年・3年・4年・5年・6年・その他  
6 10 10 10 13 3 10 10  
中学校 特別支援・1年・2年・3年・その他  
0 6 3 6 13

**B 学級会の指導方法について**

- ① 学級会の指導方法は主にどこから学びましたか。(複数回答可 合計は100%を超える)
- |                          |    |
|--------------------------|----|
| 学生時代に大学等で                | 13 |
| 教員となってから勤務校等の先輩や同僚から     | 74 |
| 自分自身の(児童生徒としての)経験に基づいて   | 32 |
| 教員となってから研修会等で(校内研究含む)    | 65 |
| 学級会の指導に関する書籍やインターネット情報等で | 35 |
| その他(初任者指導の先生から )         | 3  |
- ② 学級活動の中で学級会(話し合い活動)を行うと思いますが、その頻度はどのくらいですか。
- |           |    |
|-----------|----|
| ほぼ毎週      | 10 |
| 2週間に1回ぐらい | 23 |
| 1月に1回ぐらい  | 47 |
| 2月に1回ぐらい  | 10 |
| あまりやっていない | 10 |
- ③ 学級役員(委員長など)はいますか。  
いる 61 ・ いない 39
- ④ 学級会で主に司会をするのは誰ですか。
- |                             |    |
|-----------------------------|----|
| 担任(特別支援・小1・2年担任でした)         | 13 |
| 決まった児童生徒(学級役員など)            | 35 |
| 担任と特定の児童生徒と一緒に(学級役員など)      | 23 |
| 担任と輪番制の児童生徒と一緒に(日直・計画委員会など) | 19 |
| 児童生徒による輪番制                  | 10 |

⑤ 司会者または司会グループに対して、学級会の時間より前に指導（事前指導）をしていますか。

している	26
必要に応じてしている	51
特にしていない	23

⑥ 学級会の「司会用進行マニュアル」のようなものはありますか。

ある 32 ・ ない 68

⑦ 学級に議題箱はありますか。

ある 29 ・ ない 71

⑧ 学級に議題提案用紙はありますか。

ある 29 ・ ない 71

⑨ 学級会で意見がまとまらないときはどうしますか。

多数決で決める	26
話し合いによる合意をめざすが、決まらなければ多数決による	55
話し合いによる合意を原則とする	19

⑩ 学級会の指導について、困っていることはありますか。

ある 84 ・ ない 16

⑪ ⑩で「ある」と回答した方にお聞きします。どんなことに困っていますか。（複数回答可  
合計は100%を超える）

学級会そのものの指導時間が足りない	62
事前指導や準備の時間が足りない	73
指導の仕方がよくわからない	23
指導に自信がない	23
指導に教育的意義を感じられない	4
その他	8

☆「その他」の内容 : 時間内に終わらないこと  
自分の意見に固執する児童への指導法

⑫ 学級会を行った結果、児童生徒の変容を感じたことはありますか。

望ましい変容を感じた	78
特に感じていない	19
望ましくない変容を感じた	3

⑬ 授業時間以外（例えば朝の会や帰りの会など）にも、学級会に準じた話し合い活動をする  
ることがありますか。

よくする	13
必要に応じてする	65
あまりしない	16
しない	6

⑭ ⑬で「よくする」、「必要に応じてする」と回答した方にお聞きします。主にどの時間で  
行いますか。（複数回答が多かったのでそのまま集計 合計は100%を超える）

朝の会や帰りの会	58
朝自習、読書タイムなどの流用	33
話し合いなどにも使える短時間の指導時間枠が設定されている	0
始業前や放課後	29
休み時間（業間、昼休み含む）	38

⑮ 学級会の指導についてどのように感じていますか。感じていることについて、ここま  
での質問内容と重複してもかまいませんので、自由に記述してください。（回答した方全員の  
記述。趣旨を損なわない程度に一部表現を変えてある。）

ア 時間の確保が難しい。

イ 時間の取り方（に困っている?!）

ウ 学級会を行うに当たり、事前指導は絶対に必要だと思う。しかし、学校事情で休み時間  
も時間の確保が難しい時期が多く、（もっと練りたかったのに）妥協していることがある。

エ やはり時間が足りず、最後は多数決になってしまう。少数派の意見も大事にしたいが、  
対応する時間があまりにも不足している。

オ 時間が足りなくていつも困っている。

カ 話し合う時間が足りない。

キ（中学校では）小学校ほど学級会の時間がとれない（「学級活動」の時間が、学級会以外の  
時間に充てられることが多い）。活発に行いたい、残念である。

ク 学級会をやる時間等の余裕がない。また、どうしても子どもたちが話し合いをやりたが  
らない傾向にある。

ケ 学級会をやりたいが、やる時間と準備の確保ができずに困っている。

コ（とても興味・関心はあるのだが）事前準備等が大変。

サ とても重要であると感じているが、丁寧に行おうとするほど時間が足りず、定着までに  
至らないことが多く、悩んでいる。

シ 場に応じた発言ができない生徒がいる。1月に1回、2回と継続的に話し合い活動がで  
きれば慣れてくると思うが、なかなかそのような時間はとれない。そのような生徒には事  
後指導も行っているが、（なかなか慣れず？）生徒が少し「浮いて」しまう場合があり、話  
し合いをするのが怖いところがある。

ス（生徒の）多様性に対応しきれない。

セ 家庭の環境等で生徒の考え方の基盤や価値観が決まる。自分勝手な考え方をする生徒もあり、その考え方がなかなか変わらず、嫌な雰囲気になる事がある。

ソ 指導者側からの話ばかりでは、生徒は自分たちのことのように感じにくいいため、クラスで困っていること、必要なこと、大切なことは、生徒から積極的に意見を出させたいと思う。

タ 話し合いの流れを身につけさせることが必要だといつも思っている。日々の積み重ねが大事。

チ 話し合いの進め方が、担任が替わるとつながらない（しっかりとした系統がない）。

ツ 単年での指導が難しく、継続的にやっていくことが望ましいと思いながら毎年指導している。

テ 学年ごとの発達段階に応じた指導が難しいが、1年間を通じて段階にあった力をつけてあげたい。

ト 学級会での話し合いの経験が、教科指導の話し合いの基礎となるのに、それがわかっていない教職員が多いこと。

ナ 学級会は授業のベースにもなる。日頃から実践し、積み重ねていくことが力量形成にも役立つと思う。

ニ 学級会の内容でどんなものがあるのか、今ひとつ分からない。

ヌ 学習指導の流れとは違う面もあるので、指導者の知識・理解が必要だと感じている。

ネ どのような姿が望ましいのか分からず困っている。自分（指導者）にとっては良いと思える話し合いでも、それが児童にとっては良い効果になっていないような気がする。

ノ 低学年の場合、どうしても指導者主導になってしまう。なかなか（児童に）参加してもらえない（意見を言ってもらえない）ことがある。

ハ 現在、特別支援学級（在籍1名）のため、学級会が行えていない。

ヒ 子どもたちが自主的に活動し、発言できることを心がけている。

フ（学級会をやれば）子どもたちが自分たちで動けるようになると思う。

ヘ 話し合いをすると、子どもたちは自分の思いを伝えられるので良い。どんどん行ってもらいたい。

ホ とても面白く、学級会で輝きを見せてくれる児童が必ずいるのが、今後も続けていく意欲につながっている。

マ 生徒同士の討議なので「素」で話ができているし、とても生き生きしている。

ミ 以前勤務していた学校では、子どもたちが、1年生から当たり前のものとして学級会を経験していたので、学級会のみならず、よく話し合い、協力し合うことができていた。また、男女仲が良いのも学級会を行っている学級の特徴だと思う。

## C 考察

まず、回答者の構成であるが、性別、年齢、指導学年とも、おおよそまんべんなく分布しているものと判断する。ただし、このアンケートの回答者数が31名と限られていること、特別活動・学級経営部会の、学級会の指導に関する研修会の参加者であることから、統計的なサンプルとしては、やや偏りがあるだろうと考えられる。

次に、指導の実態について、自分の考えも含めて考察する。

まず、学級会の指導方法は主にどこから学んだかという設問では、「勤務校等の先輩や同僚から」が最多で74%である。次いで「研修会」「書籍やインターネット情報」「自分自身の（児童生徒としての）経験」と続く。教科書や指導書がない中、経験の伝承によって学ばれている現状が見える。研修会・書籍・インターネット情報については、その内容が問われるところであろう。①

学級会（話し合い活動）の頻度については「1月に1回ぐらい」が最多で47%、「2週間に1回ぐらい」23%と続く。学級活動の年間授業時数は標準で35時間である。これをもとに、現行の指導要領（小学校）で考えると、「共通事項（1）」（学級会の内容）に20～25時間、「共通事項（2）」に10～15時間あたりだろう。話し合ったことを実践する時間も必要になるので、実際の話し合いは、最大見積もっても20時間というところであろうか。（20時間やると、多分35時間では収まらないだろう。）「1月に1回ぐらい」から「2週間に1回ぐらい」の間が妥当な線と考えられる。②

学級役員を置いているのは6割、そして、学級役員が司会に関わるのもおおよそ6割である。学級会の司会は学級役員の仕事といえる。がしかし、学習指導要領解説には「計画委員会」の言葉があり、文部科学省の資料には「輪番制」が示されている。名称はともかく、司会・記録のグループは全員に経験させることが望ましい。なお、低学年（初級）の指導においては、担任が主となって司会進行しながら、そのやり方を順次学ばせていく必要がある。初級段階では「担任と輪番制の児童生徒が一緒に」行き、徐々に児童生徒に任せるようにし、慣れてきたら担任の適切な指導の下、「児童生徒による輪番制」で行うようにするのがよいと考える。③④

司会者または司会グループに対して、学級会の時間より前に指導（事前指導）をしているかとの問いについての回答は、「必要に応じてしている51%」「している26%」となっている。後述するが、事前指導を適切に行えば、それだけ話し合い活動は充実し、指導の成果も高く表れるのは言うまでもない。ただ問題なのは「時間」である。⑤

学級会の「司会用進行マニュアル」、議題箱、議題提案用紙、いずれも「ない」という回答が7割であった。どうしても必要とまではいわないが、あったほうがやすい。⑥⑦⑧

「学級会で意見がまとまらないとき」の原則は、理想としてはあくまでも「話し合いによる合意」である。しかし、ここでも問題なのは「時間」である。また、「話し合いによる合意」を強力求めると、「同調圧力」がかかる可能性があるだろう。その点も十分配慮しながら進める必要がある。現実問題としては、（少数意見も十分尊重しつつ）「話し合いによる合意をめざすが、決まらなければ多数決による」方法でやむを得ないとする。⑨

「学級会の指導について、困っていることはありますか。」との問いに対しては、実に84%の教員が「ある」と答えている。多いのは「時間が足りない」こと、次いで、指導法についての不安である。指導時間については、授業以外の時間を捻出して指導している様子がうかがわれる。⑩⑪⑬⑭

学級会を行うことの手応えについて、8割の教員が、児童生徒の「望ましい変容を感じた」と回答している。学級会をやる意味は十分に感じているのであろう。⑫

問⑬については、回答して下さった方全員の記述を掲載してある。(ただし、趣旨を損なわない程度に一部表現を変えてある。)やはり、「時間」に関する記述が最も多かった。同様に多いのは、色々な点で指導法についての課題とまとめられる。一方、学級会をやる価値について語られている方も少なからず見受けられた。

## (2) より実施しやすい学級会のあり方・考え方の提案

アンケート結果と自身の経験を踏まえて、より実施しやすい学級会のあり方・考え方を提案する。まず文部科学省の資料から、学級会のスタンダードな日程例を挙げる。

### 金曜日に学級会がある場合の1週間の流れの例(一部省略)

- ① 問題の発見(前の週の金曜日までに)
  - ・議題を募集する。
- ② 議題の選定(月曜日:業間休み・昼休み)
  - ・学級の実態や行事等を踏まえ、選定する条件に従って、議題を整理し、選定する。
- ③ 議題の決定(月曜日:帰りの会)
  - ・整理した議題を知らせ、今週の学級会で話し合う必要のある議題を決める。
- ④ 計画の作成と諸準備(火・水・木曜日) ☆筆者注:どの時間でやるかは示されていない。
  - ・計画委員と提案者で「学級会の活動計画」を作成する。
  - ・学級会の役割分担を確認する。
  - ・「議題」や「提案理由」、「話し合うこと」(柱)を学級会ノートにまとめ、配布する。
  - ・学級会コーナーで「議題」「提案理由」「話し合いのめあて」「話し合うこと」(柱)を知らせる。
  - ・学級全員に学級会ノートに自分の意見を記入させる。
  - ・全員の学級会ノートに目を通す。
  - ・話し合いを予想する。話し合いの全体的なイメージを持つ。
- ⑤ 学級会(金曜日当日)
- ⑥ 実践と振り返り

これを日常的・計画的に実施できれば、それに越したことはない。しかしこの方法は、授業時間以外での指導と児童生徒とともに準備することを前提としている。ある程度は可能であろうが、「ブラック」とも揶揄される学校業務の多忙化の中で、これから始めようと思うためには、よほどの動機付けが必要であろう。更に多忙になっていくのであるから。

そこで今回、学級活動の授業時間でできるだけ収められるような、そしてより充実した実践の礎になるような学級会のやり方はないものか、そのための必要最低限の準備は何か、そこに焦点を当てて、考えてみたい。

### 道具立て

- ① 短冊(例 A3 紙を縦に3等分したもの)とセロテープ(磁石がたくさんあればなおよい。)
- ② マジック(黒のほか2色。例 赤:賛成・決定 青:反対)
- ③ ノート記録用のノート(児童用の縦書きのノートなどでよい。)
- ④ 掲示スペース(背面黒板でよい)



☆できればあったほうがよいもの

- ⑤ 議題箱（空き箱等で作る、作らせる。）と紙（コピー用紙。議題提案用紙ならなおよい。）
- ⑥ 司会用のマニュアル
- ⑦（全員に発言の機会を保障してやりたければ）トーキング スティック

### 指導についての考え方

- ① 問題（議題）解決学習と考える。例えば算数数学の指導と同じ。ただし、正解やよりよい処理法を見出すのではなく、みんなの合意をめざす。1から10まで子どもの話し合いに委ねる必要はない。指導者が決めてしまうところ、あっさりと採決させるところ、じっくり話し合わせるころを選べばよい。1時間で解決できる程度に課題（話し合いの内容や柱）を絞ることや、1時間の中で、「話し合い」とそれに基づく「実践」を行うことも「あり」である。
- ② 議題に対して「話し合いの柱」を設定する。（算数数学の課題解決のための小問と考えればよい。）基本は「①何をするか」、「②どうするか（気を付けることやルール、盛り上げる工夫など）」、「③役割」の3本柱である。
- ③ 司会・記録のグループは全員に経験させる。学年を問わず、「初級」の指導においては、「担任と輪番制の児童生徒と一緒に」行い（はじめは担任が主司会と黒板記録の記述を兼任）、そのやり方を順次児童生徒に学ばせ、少しずつ仕事を渡していく。慣れてきたら、担任の適切な指導の下、「児童生徒による輪番制」で行うようにする。
- ④ 敢えて言えば、何をするかはどうでもよいことである。「何をするか」をどう決めるか、そしてどう行うか、つまり望ましい方法で話し合うことそのものが学習である。（ただし、児童生徒に決めさせられないことはある。教育課程の変更、金銭、人権、法令違反に当たることなどである。）
- ⑤ 話し合いにおいては、お互いの意見をよく聞き合うこと、「自分もよく、みんなもよい」ように考えさせること。折り合いをつけられるように指導できるとよい。
- ⑥ 時間の許す限り、話し合いによる合意をめざすが、決まらなければ多数決により決定する。ただし、あらかじめ学級として、多数決に関する規定を定め、合意しておく。
- ⑦ 話し合いの基本的な流れは、「出し合う」→「比べ合う」→「まとめる（決める）」で行う。反対意見を述べることも当然認めてよい。ただし、「反対」というより「心配」と考えさせるほうが話し合いが柔らかくなる。また、よりポジティブな話し合いになるよう、賛成意見（自分が望むこと）を中心にすることも考えられる。

### 指導の流れ

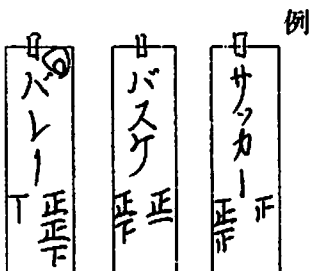
#### 【当初】

- ① 学級会の意義と目的、方法、議題例等について児童生徒に伝える。また、前記のような児童生徒に決めさせられないことがあるという点も伝えておく。（オリエンテーション）

#### 【事前】

- ①（計画委員と共に、）あらかじめ議題と提案理由、条件、話し合いの柱を選び、児童生徒に伝えて決める。また考えておくよう伝える。できれば背面黒板等に掲示しておくとうい。
- ② 計画委員会のグループに、司会（2～3名）黒板記録（2名）ノート記録（1名）の役割分担を決めておくように指示する。また、できれば、司会グループには事前にマニュアルを渡し、よく読んでおくよう、指示する。

【本時の展開】

話し合いの順序	時配	活動の詳細および指導上の留意点
① 席を移動する。(できれば時間前)	0分	・「コの字」型にするか、椅子だけで輪になる。いずれにしる、お互いの顔が見えるのがよい。
① はじめのことば (司会)	1分	・指導の状況に応じ、指導者も司会グループに入り、主導したりアドバイスしたりしながら進めていく。
② 議題・提案理由・条件の確認 (司会でもノート記録でも・・・)	2分	・特に提案理由は、何のために話し合うのかという点で重要である。また、実施の条件は譲らない。
問題提示		・議題と提案理由は、提案者に言わせるのもよい。
③ 話し合い	35分	・話し合いの基本的な流れは、柱ごとに「出し合う」
「出し合う」	自力解決	→「比べ合う」→「まとめる(決める)」で行う。反対意見を述べることも認める。いずれにせよ、自分の意見には、できるだけ理由をつけられるように指導する。
「比べ合う」	比較検討	提案理由を根拠に話し合いをさせる。また、お互いの意見をよく聞き合うこと、「自分もよく、みんなもよい」ように考えさせること。(心から)折り合いをつけられるように指導できるとよい。
「まとめる(決める)」	まとめ	
話し合いの柱：例		「出し合う」
① 何をするか (10分)		・議題(柱)に対して、アイデアを考える時間を1、2分とり、案を出させる。それぞれの案は、短冊に書き、黒板に掲示する。「初級」段階では、教員が司会と兼ねて短冊を書き、黒板記録に渡して掲示させる。
② どうするか (15分) (気を付けることやルール、盛り上げる工夫など)		・案を出し合っているときには、それぞれの意見に対する賛否の意見は言わせない。
③ 役割 (10分)		・全員に発言させたいければ、トーキングスティックを使用し、座席順で、ひとつの柱につき1回ずつ発言させる方法もある。発言できない児童は、「パスします。」と言って、次の児童にトーキングスティックを渡すようにさせる。(「パスします。」は発言の練習となる。)
・意見を短冊で掲示		「比べ合う」
・賛否に正の字		・ひととおり案が出そろったら、先に質問を受け、その後、それぞれの案に対して、賛否の意見を問う。
例 賛成：赤		・それをしたらどんなよいことがあるか、どんな心配なことがあるか、という観点から検討させる。
反対：青		・否定的な意見が続く場合には、物事のよいところに注目していくよう、指導する。
・決定したことに印		・譲り合い、折り合いをつけ、まとめる意見が出されるとよい。
例 赤◎		
		

		「まとめる（決める）」
		・それぞれの柱について割り当てた時間になったら、話し合いは終了し、多数決で決定する。原則過半数による。（あらかじめ決めてある規定で）
		・もちろん、採決の必要がなく合意できれば、そのほうがよい。
		・決定に不満を示す児童がいる場合、多数決を尊重することと決定には従うこと、後日再提案してよいことについて伝える。
④ 決まったことの確認 (ノート記録)	2	・主要な点だけ述べさせる。「あとは黒板に書いてある通りです。」でよい。
⑤ 振り返り	2	・何人かに口頭で言わせるだけでもよい。
⑥ 先生の話	2	・本時の活動の中で、児童のよかったところを取り上げ、称賛する。より良い話し合いのために、次回への課題点を伝える。また、司会グループに対するねぎらいを伝える。
⑦ おわりのことば（司会）	1	

### (3) 必要資料の提示

学級会を軌道に乗せるための必要資料をモデルとして提示する。(→資料編)

#### 4. 結論にかえて

自分は、これだけやればよいというつもりはない。むしろここを、いわば「スタートライン」として提示するものである。ここらあたりからスタートして、さてどこまでどのように行くか、それは一人一人の実践による。

#### 5. 参考文献

- (1) 文部科学省・国立教育政策研究所 教育課程研究センター「特別活動指導資料 楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）」（平成26年 文溪堂）
- (2) 文部科学省・国立教育政策研究所 教育課程研究センター「特別活動指導資料 学級・学校文化を創る特別活動（中学校編）」（2016年 東京書籍）
- (3) 茂原市立中の島小学校「平成24年度 研究紀要 よりよい生活づくりに参画・実践しようとする態度の育成〔学級活動（1）〕」
- (4) J・ネルセン、L・ロット、H・S・グレン（会沢信彦：訳）「クラス会議で子どもが変わる—アドラー心理学でポジティブ学級づくり」（2000年 コスモス・ライブラリー 星雲社）
- (5) 赤坂真二 「赤坂版『クラス会議』完全マニュアル 人とつながって生きる子どもを育てる」（2014年 ほんの森出版）
- (6) 赤坂真二 「赤坂版『クラス会議』バージョンアップガイド みんなの思いがクラスをつくる！」（2016年 ほんの森出版）

# 主題：学級会指導の現状と改善への提言

## (資料編)

### 内 容

#### 1 議題について

- (1) 議題例
- (2) 児童生徒に決めさせられないことの例
- (3) 議題の募集の仕方例
- (4) 議題を選ぶ際に考える観点例
- (5) 議題提案用紙例

#### 2 司会進行に関して

- (1) 司会と進行の手引き例
- (2) 多数決に関する規定を決める際の観点例
- (3) 振り返り用紙例

#### 3 掲示用文言

- 「自分もよく、みんなもよい」
- 「出し合う」→「比べ合う」→「まとめる(決める)」
- 「一番大事なことは『聞く』こと」

<ul style="list-style-type: none"> <li>・じぶんたちにできるしごとをみつけよう</li> <li>・係を決めよう</li> <li>・係活動を振り返ろう</li> <li>・係の中間発表会をしよう</li> <li>・係発表会をしよう</li> <li>・もっと役に立つ係を考えよう</li>   <li>・学級会の名前を決めよう</li> <li>・学級紹介をつくろう</li> <li>・お昼の放送で学級紹介をしよう</li> <li>・学級の歌を作ろう</li> <li>・学級の旗をつくろう</li> <li>・学級ギネスブックをつくろう</li> <li>・みんなが楽しく学級文庫をつかえる工夫を決めよう</li> <li>・学級すごろくをつくろう</li> <li>・クラスの足あとをのこそう</li> <li>・学級思い出文集を作ろう</li>   <li>・お楽しみ会をしよう</li> <li>・自己紹介の会をしよう</li> <li>・進級おめでとうパーティーをしよう</li> <li>・『もっとなかよしになろうねの会』をしよう</li> <li>・楽しい給食タイムの計画を立てよう</li> <li>・みんなが仲良くできるイベントを開こう</li> <li>・がんばったね集会を開こう</li> <li>・室内ゲーム大会をしよう</li> <li>・スポーツ大会の計画を立てよう</li> <li>・ミニオリンピックをしよう</li> <li>・プールでゲーム大会をしよう</li> <li>・ジャンケン大会をしよう</li> <li>・紙飛行機大会をしよう</li> <li>・宝さがし大会をしよう</li> <li>・友だちの良いところ紹介大会をしよう</li> <li>・特技発表会の計画を立てよう</li> <li>・おたんじょうかいをしよう</li> <li>・〇〇さんとのお別れ会をしよう</li> <li>・〇〇さんの歓迎会をしよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6年生にがんばってねの気持ちを伝えよう</li> <li>・夏休み体験発表会を開こう</li> <li>・読書発表会を開く計画を立てよう</li> <li>・カルタ大会をしよう</li> <li>・新聞コンクールをしよう</li> <li>・ミニコンサートを開こう</li> <li>・学級新年会を開こう</li> <li>・〇年生さよなら集会を開こう</li> <li>・感謝の気持ちを表す計画を立てよう</li> <li>・6年生にありがとうの気持ちを伝えよう</li> <li>・6年生からのバトンを引き継ごう</li> <li>・〇〇先生（実習生）ありがとうの会をしよう</li> <li>・できるようになったよ発表会をしよう</li> <li>・縄跳びの技を伝える計画を立てよう</li>   <li>・雨の日を楽しく過ごそう</li> <li>・クリーン作戦の計画を立てよう</li> <li>・新1年生を迎える教室の飾りつけを考えよう</li> <li>・すてきな教室をプレゼントしよう</li> <li>・学校のためにできることを考えよう</li>   <li>・「夢ハイキング」の計画を立てよう</li> <li>・1年生とふれあう計画を立てよう</li> <li>・楽しい遠足にするための計画を立てよう</li> <li>・ほいくしよの友だちと、なかよしになろう</li> <li>・ふれあいタイムの遊びを決めよう</li> <li>・宿泊学習を成功させよう</li> <li>・宿泊学習の5-1タイムの計画を立てよう</li> <li>・校外学習思い出発表会をしよう</li> <li>・クラス対抗〇〇大会をしよう</li> <li>・楽しい修学旅行にしよう</li> <li>・盛り上がる修学旅行のバスレクを考えよう</li> <li>・運動会を盛り上げよう</li> <li>・運動会がんばったねの会をしよう</li> <li>・縄跳び大会の作戦を立てよう</li> <li>・あいさつ運動を盛り上げよう</li> <li>・6年生を送る会の計画を立てよう</li> <li>・卒業アルバムクラスページの計画をしよう</li> </ul>
---	--

☆ 学習指導要領において、いわゆる「学級会」を想定して、取り扱う内容として示されているのは以下のとおりである。

**現行指導要領（小中とも）**

- (1) 学級や学校の生活づくり
- ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決
  - イ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理
  - ウ 学校における多様な集団の生活の向上

**新指導要領（小中とも）**

- (1) 学級や学校における生活づくりへの参画
- ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決
  - イ 学級内の組織づくりや役割の自覚
  - ウ 学校における多様な集団の生活の向上

内容に関して言えば、現行指導要領、新指導要領とも、小中学校で共通である。なお、新指導要領で変更になっているのは、      の部分だけである。

このことから、学級会の議題例としてここに示したものは、新指導要領でも使えるものと考ええる。

中学校の事例に関して記す。

「5. 参考文献(2) 文部科学省・国立教育政策研究所 教育課程研究センター「特別活動指導資料 学級・学校文化を創る特別活動(中学校編)」（2016年 東京書籍）」には、17の事例が掲載されているが、そのうち「学級会」としてみることのできるものは3事例である。具体的には以下の通り。

- ・学級生活を見直そう
- ・係活動を充実させよう
- ・卒業生を送る会を成功させよう

指導要領で示されている内容が小中共通なので、小学校の議題例は十分参考になるのではないかと。

1 (2) 児童生徒に決めさせられないことの例

- ① 個人情報やプライバシーの問題
  - ・個人情報の公開 など
- ② 相手を傷付けるような結果が予想される問題
  - ・個人を責める内容
  - ・人権にかかわる内容 など
- ③ 教育課程の変更にかかわる問題
  - ・時間割の変更
  - ・学級単独での遠足 など
- ④ 校内のきまりや施設・設備の利用の変更などにかかわる問題
  - ・体育館等の使用
  - ・菓子の飲食 など
- ⑤ 金銭の徴収や物品の購入にかかわる問題
  - ・プレゼント代の集金
  - ・必要用具の購入 など
- ⑥ 健康・安全にかかわる問題
  - ・危険を伴うゲーム など
- ⑦ 法令違反に当たること  
(これは言うまでもない)

1 (3) 議題の募集の仕方例

- ① 議題箱を使う。
- ② 朝の会や帰りの会で議題を募る。
- ③ 全員に紙を配り、議題案を書いてもらう。
- ④ グループで相談させる。
- ⑤ 係などからの提案がないか聞く。
- ⑥ 普段のおしゃべりや話題から拾う。
- ⑦ 案がありそうな児童生徒に水を向け、促す。

1 (4) 議題を選ぶ際に考える観点例 (☆全部を100%満たすということではない)

- ① 多くの児童生徒が話し合うことを望んでいるか。
- ② 学級全員で協力できる内容か。
- ③ 決めたことを(指導者の力を借りながらも)自分たちの力で実行できるか。
- ④ 自分たちで工夫してできるか。
- ⑤ 学級や学校生活をよりよいものにできるか。

1 (5) 議題提案用紙例 (☆ 必須ではない。)

<p>ぎだいていあん 議題提案カード ( )月( )日</p>	
<p>ぎだい ひと 議題をだした人</p>	
<p>がっきゅうかい 学級会で はな あ 話し合いたい ことは</p>	
<p>はな あ 話し合いたい わけは</p>	
<p>..... きりとせん .....</p> <p>( )さんへ</p> <p>ぎだい ていあん 議題を提案してくれて、ありがとうございました。</p> <p>ていあん つぎ あなたの提案は、次のようになりました。</p> <p>1 ( )月( )日の学級会の議題になりました。</p> <p>2 あさ かい かい かい はな あ 朝の会・帰りの会で話し合うことになりました。</p> <p>3 ( )係に考えてもらうことになりました。</p> <p>4 せんせい ねが 先生にお願いしました。</p> <p>5 その他( )</p> <p style="text-align: right;">けいかくいんかい 計画委員会より</p>	



2 (1) 司会と進行の手引き例 (☆ 必須ではない。)

しかい しんこう てび  
司会と進行の手引き

話し合いの順序	分	話し合いの進め方
① はじめのことば (司会)	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これから、第〇会、学級会をはじめます。</li> </ul>
② 議題・ 提案理由・ 条件の確認 (司会・提案者・ノート記録)	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の議題は、「                    」です。</li> <li>・提案理由は「                    」だからです。</li> <li>・決まっていることは「                    」です。</li> </ul>
<p>③ 話し合い</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>☆話し合いは、柱 (●) ごとに、 「出し合う」 →「比べ合う」 →「まとめる (決める)」 の順で行います。</p> <p>・意見を短冊で掲示</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>☆先に質問とその答えを確認します。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>☆たくさんの人の意見が聞けるようにしましょう。</p> <p>・賛成反対に「正」の字 例 賛成：赤 反対：青</p> </div>	35	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日話し合うことは①「                    」、②「                    」、③「                    」・・・です。</li> <li>・では、話し合いに入ります。</li> <li>・まず、①の「                    」について話し合います。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「出し合う」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まず、アイデアを考える時間を (    ) 分とります。考えてください。</li> <li>・(時間が来たら) では、考えたことを言ってください。理由 (わけ) も話してください。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「比べ合う」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(意見が出そろったら) 質問はありますか。</li> <li>・答えられる人、お願いします。</li> <li>・賛成の意見や心配なことがあれば言ってください。理由 (わけ) も話してください。</li> <li>・提案理由をもとに考えましょう。</li> <li>・意見をよく聞き合いましょう。</li> <li>・つけたしの意見はありますか。</li> <li>・にている意見はありますか。</li> <li>・まとめられるものはありますか。</li> <li>・どちらも生かせる新しいアイデアはありますか。</li> </ul> </div>

<p>・決定したことに印 例 案◎</p> <p>☆もちろん、多数決をせずに決めれば、そのほうがよいです。</p> <p>☆◎以下も同じように進め、決めていきます。</p> <p>④ 決まったことの確認 (ノート記録)</p> <p>☆決まったことの主な点だけ言えばよいです。 細かいことは、「あとは黒板に書いてある通りです。」でかまいません。</p> <p>⑤ 振り返り</p> <p>⑥ 先生の話</p> <p>⑦ おわりのことば(司会)</p>		<p>「まとめる(決める)」</p> <p>・「            」という意見が多いので、「            」に決めてもいいですか。(反対の人がいたら、その意見を聞いて、さらに時間まで話し合う。)</p> <p>・(それぞれの柱について割り当てた時間になったら)時間になってしまったので、多数決で決めます。(あらかじめ決めてあるルールで)</p> <p>・①の「            」は、「            」に決まりました。</p> <p>2</p> <p>・決まったことを、ノート記録の(            )さん、発表してください。</p> <p>・今日決まったことは、「            」「            」「            」です。</p> <p>・あとは黒板に書いてある通りです。</p> <p>2</p> <p>・今日の話し合いについて、ふりかえりをしましょう。(先生の指示があれば、カードに記入することもあります。)</p> <p>・今日の話し合いでよかったことを発表してください。</p> <p>2</p> <p>・先生のお話です。先生、お願いします。</p> <p>1</p> <p>・これで、第○会、学級会を終わりにします。</p>
---	--	---

2(2) 多数決に関する規定を決める際の観点例(子どもたちと話し合っ決めておきたい。)

- ① いずれの案も過半数に届かない場合、どうするか?
- ② 1つでなく、2つ以上を選ぶ場合、どうするか? 過半数なら挙手の回数はいくつ?
- ③ 保留(賛成でも反対でもない)を認めるか?

2 (3) 振り返り用紙例 (☆ 必須ではない。)

## きょうのふりかえり

( ) 月 ( ) 日 名前 ( )

よくできた：◎      できた：○      もうすこし：△

話し合いをふりかえって (みんな)	◎○△
(1) 自分の考えを発表できた。	
(2) 友だちの意見をよく聞いた。	
(3) 「自分もよく、みんなもよい」ように考えた。	
(4) 司会グループに協力できた。	
(5) 話し合いながら、よりよい意見を持てた。	

話し合いをふりかえって (司会グループの人)		◎○△
自分の役割	司会 ・ 黒板記録 ・ ノート記録	
(1) 自分の役割をしっかりとできた。		
(2) 助け合い、協力し合って進められた。		

考えたこと・思ったこと

じぶんもよく

みんなもよい

よからい、いからよ

まず、

出し合う

次に、

比べ合う

最後に、

まとめる

(決める)

一番大事なのは

「聞く」

1120